

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 えまあぶる			
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 10日		～	令和7年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33	(回答者数)	33
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 10日		～	令和7年 2月 6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 17日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	室内が広く清潔であり、様々な活動がしやすい。	視覚支援(掲示物の工夫や環境の整理)を行っている。	更にわかりやすい掲示や支援内容を考え、取り組んでいく。
2	入浴設備があり、保護者からの様々なニーズ(身辺自立や、清潔保持)に応えることが出来る。	送迎時や面談の際に細かくニーズを聞き取り、それに合わせた支援を行っている。	保護者からの意見ももちろん、利用児からのニーズややってみたいこともとりいれていく。
3	STやPTの専門資格を持つスタッフが揃っている。	それぞれの強みを活かした取り組みや支援を行い、保護者に共有している。	取り組んでいる内容を口頭だけではなく、動画や写真に収め、ご家庭でも取り組んでいただけるように支援内容を共有していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	避難訓練等を行っているが、保護者への周知が薄い。	訓練を行った日に参加していなかった利用者への、取り組み内容の共有を行なっていない。	何日かに分けて避難訓練等を行い、取り組んだ内容の周知を口頭や書類で行う。
2	保護者参加型のイベントが少ない。	事業所への通所を、周囲に知られることに抵抗がある方もいるため。	保護者に事業所で取り組んで欲しいイベントをお聞きし、検討を行う。
3	地域で開かれるイベント等への参加が少ない。	地域内のイベントや催しの内容把握が出来ていない。	地域内のイベントや催しを調べ、参加を検討する。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		児童発達支援 えまあぶる		公表日		2025年 2月 28日			
				利用児童数		2025年 1月 31日		回収数 33	
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	27	3		3	・新しくなり、より広くなった ・新しくなったが、まだ見学していない	現状の状態を維持していく	
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	29			4	・数が多く、安心している ・職員がたくさん居て、良いと思う	引き続き、現状の体制を維持していく	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	27	1		5	・実際に見ていないので不明	個々の特性に応じた視覚支援の工夫を行い、保護者にも環境整備の内容についてお伝えしていく	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	26	3		4	・実際に見ていないので不明 ・いつもキレイです	感染対策を行い、清潔な状態を維持している	
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	30	1		2	・子どもに合わせて接していただいている	個々の課題に応じた支援ができるよう取り組んでいく	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	31	1		1		引き続き、職員間で情報共有や意見交換などを行いながら、活動プログラムを立案していく	
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	32			1	・心配事にあった理解や、計画書の作成がある ・支援計画に沿って接していただけている	保護者のニーズ、子どもの状況などを日々の支援の中で確認しながら、計画作成を行っていく	
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	30	1		2		5療育を基に短期・長期目標を設定し、フィードバックを行うことにより、それぞれに必要な支援を行えるよう取り組んでいく	
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	31	2			・とても思う	事業所内での会議にて、ニーズや課題の掘り下げなど随時行っていく	
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	32			1	・毎回違う活動をしている	職員間で意見交換を行いながら、様々な活動を行っているよう、引き続き工夫し取り組んでいく	
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	20	4	4	5	・別な所でも交流がある	地域との交流の機会を設けていき、活動内容を周知していけるよう努める	
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	32			1	・何事も丁寧に説明がある	引き続き丁寧な説明を継続して行っていく	
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	33				・内容の質問にも詳しく伝えてもらい、分かりやすい	今後も、保護者の方に分かりやすく伝えていけるよう取り組んでいく	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	14	2	9	8	・実際に見てみたい ・そのような機会はない	引き続き保護者との共有を行ないながら、都度支援についての説明などを行っていく。家族支援プログラムとしては今後検討をしていく	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	29	1	2	1	・送迎などで様子を伝えてくれる	保護者との共有を行っていくとともに、より共通理解を深めていけるよう取り組んでいく	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	30	2		1	・送迎などで様子を伝えてくれる ・丁寧にアドバイスをくれる ・行われている	引き続き、保護者との会話の機会を増やし、職員間で意見交換を行いながら、対応・助言を行っていけるよう取り組んでいく	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	32			1	・否定的に捉えないのでありがたい ・とても思う	引き続き、共感的支援を行っていく	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	5	3	16	9	・数年通っていない ・無いため、あると良い	今後検討していく	
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	30			3		発生した際には迅速に対応し、職員間で共有を行なっていく	

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	29	3		1		保護者が抱えるニーズにも配慮しながら、今後もしできる限り対応していく
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	22	4	2	5	・個人ごとにくれるため、とても見やすい	引き続き行っていく
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	30		1	2		徹底した管理や取扱いを行っているが、今後も安心して通所していただけるよう、より情報管理に努める
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	19	2	1	11	・緊急時の説明はされていない	定期的な訓練などは行っているが、保護者にもより丁寧な説明と周知を行なっていく
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	17	3		13		様々な想定を考慮し、訓練を行い、保護者にも取り組み内容の周知をしていく
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	25	3	1	4	・外出イベントの際、場所などの詳細がわからない時があるため、何かあった時に心配	安全計画を基に研修を行い、保護者にも取り組み内容をお伝えしているが、より分かりやすく周知できるよう努める
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	24	1		8	・熱がある時に連絡をもらえる ・訪問看護の様子を伝えてくれる	引き続き、事故等が発生した際は迅速に対応し、保護者へ連絡や説明を行っていく
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	31			2		引き続き利用者が安心して通えるように、改善と工夫を行っていく
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	29	2	1	1	・挨拶をしっかりとおり、朝から楽しみにしている	引き続き利用者が安心して通えるように、改善と工夫を行っていく
	29	事業所の支援に満足していますか。	30	2		1		保護者と目的、支援内容を都度共有し、同じ方向性を持って支援を行っていく

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
児童発達支援 えまあぶる		2025年 2月 28日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		適切な配置で支援を行っている。	現状の状態を維持していく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		適切な配置で支援を行っている。	現状の状態を維持していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		視覚掲示や環境整理を行い、過ごしやすい事業所作りを行っている。	さらに分かりやすい環境作りの工夫を行っている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		毎日掃除や消毒を行っている。	現状の状態を維持していく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		体調不良時や眠い時などにゆっくり身体を休められる場所を用意している。	いかなる時でも安全に過ごせるように、引き続き現状の状態を維持していく。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7		毎日振り返りを行い、全員で参画している。	引き続き、職員間で情報共有や意見交換などを行いながら、活動プログラムを立案していく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		評価表、送迎等で意向や思いを聞き工夫している。	保護者のニーズ、子どもの状況などを日々の支援の中で確認しながら、評価表により把握と改善を行っている。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		日々のミーティングで意見を取り入れている。	ミーティングだけではなく、普段から意見交換をしやすい場を作っていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		7		外部評価は行っていないが、定期的な研修などで業務改善に取り組めるよう努める。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		定期的な研修を行っている。	研修に参加し、更に職員の資質の向上を図っていく。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		毎月公表している。	引き続き、作成と公表を行う。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7		ニーズを把握し、作成を行っている。	引き続き定期的な面談や送迎時の会話を通して、ニーズを把握し作成を行っていく。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		ミーティングや支援会議を通して全員が共通の認識をもって、支援を検討している。	引き続き、全員が共通の認識を持って支援を検討していく。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		ミーティングや会議で共有し、方向性や支援を統一している。	引き続き、全員が共通の認識を持って支援を行っていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		記録に残し、日々確認している。	引き続き行っていく。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		全ての項目を適切に設定し、具体的かつ分かりやすい支援内容をお伝えしている。	引き続き行っていくと共に、分かりやすい支援内容の設定を行う。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		ミーティングで意見を出し合い、活動プログラムを立てている。	引き続きチームでのより良い立案を行っている。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		毎日内容が偏らないように設定、支援を行っている。	外遊び等、より活動プログラムの幅を広げていきたい

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7		保護者のニーズ、子どもの状況などを日々の支援の中で確認しながら、支援を行っている。	引き続き、保護者のニーズ、子どもの状況などを日々の支援の中で確認しながら、支援を行っていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		朝のミーティング時間を設けており、チームで行えるように話し合っている。	更に内容を深めながら、話し合いを行う。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		ミーティングを毎日行い、気づいた点や改善点を出している。	引き続き行い、改善後のフィードバックも行いたい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		必ず毎日記録を取っている。	現状の状態を維持していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		半年に一度モニタリングを行い、計画の見直しを行っている。	引き続き、半年に一度モニタリングを行い、計画の見直しを行っていく。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		必ず状況を把握している職員が2名以上で出席している。	引き続き子どもの状況把握に努め、会議に参加していく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		訪問看護や保育園、幼稚園など、連携を行っている。	更に連携を深め、共通の認識を持って支援を行っていききたい。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7		送迎時や電話などで、様子の共有と連携を図っている。	引き続き連携を図り、より適切な支援を行っていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7		保護者からの相談やニーズがある際に連携し共有を行なっている。	就学に向けてスムーズに移行できるよう、情報共有を行っていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)		7		連携を図っていけるよう努める。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		7		連携を図っていけるよう努める。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		送迎時に必ず行っている。コミュニケーションを取る中で、信頼関係を築けるよう心掛けている。	引き続き行い、信頼関係を築いていく中で、安心して相談や連携を図ることが出来るようにする。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		7	ペアレントトレーニング等は行っていない。	講習会の案内など、保護者に向けて情報発信を行っていききたい
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		必ず行っている。	引き続き丁寧な説明を行っていく。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		面談を設け、子どもや家族の意向を確認している。	引き続き面談や会話を通して、より良い支援内容を提供、確認を行う。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7		必ず提示しながら、口頭で説明をしたあとに同意をいただいている。	引き続き丁寧な説明を行っていく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		1人で考え応えるのではなく、職員全員で考え、助言や支援を行っている。	1人で判断せず、会議を通して適切な助言や支援を行えるように連携していく。

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		7	そのような機会は設けていない。	保護者からのニーズが増えれば検討したい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		迅速に対応し、記録としても残している。	引き続き迅速な対応を行っていく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		個人情報に十分注意しながら、活動内容を写真等でお伝えしている。	引き続き個人情報に十分注意しながら、活動内容をお伝えしていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		留意している。	引き続き十分注意しながら、取り扱っていく。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		言葉選びや伝え方の工夫を行っている。	言葉だけでなく、写真など視覚支援を取り入れながら、分かりやすくお伝えしていく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		7		今後検討していきたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		年間計画に沿って、マニュアルを基に訓練を行っている。	引き続き計画に沿って訓練を行い、保護者にも取り組みを周知する。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		年間計画に沿って、マニュアルを基に訓練を行っている。	引き続き計画に沿って訓練を行い、保護者にも取り組みを周知する。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		必ず聞き取りを行い、服薬の状況確認と共有を行なっている。	引き続き確認と共有を行ない、認識に誤りがないように注意する。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		クッキングの際には、事前に再度保護者に確認しており、対応を行っている。	引き続き確認と共有を行ない、認識に誤りがないように注意する。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		年間計画に沿って、マニュアルを基に訓練を行っている。	引き続き計画に沿って訓練を行い、保護者にも取り組みを周知する。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		7	安全計画を策定し、保護者へも伝えているが、あまり周知が出来ていない。	口頭だけではなく、書類を作成し、分かりやすく伝え、周知していく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		記録として残し、共有を行なっている。	引き続き記録を残し、共有を行なっていく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		定期的な研修やミーティングを行っている。	引き続き、定期的に研修に参加したり、ミーティングにて虐待防止についての内容を学んでいく。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。		7	組織として身体拘束は行わないとしており、そのための研修や支援方法についても話し合っている。	引き続き、身体拘束は行わず、安全に過ごせるように配慮していく。